

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅱ-1-7 災害に強い県土づくり

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 河川課長 田中 悟 電話番号 0852-22-5195

事務事業の名称	河川管理事業	
目的	(1) 対象	河川流域住民
	(2) 意図	治水、利水上における河川の適正管理の一環として、河川の適正利用の推進及び愛護意識の向上を図る。
事業概要	適正な河川利用や流水の正常な機能維持を図るための河川占用許可等における申請者への適切な指導、出水時に操作が必要な水門等河川管理施設を適正に操作するための点検、河川巡視を効率的に実施するために必要な許可工作物・水利権に関する台帳整備、河川等愛護活動を活性化するための河川愛護団体に対する支援等を行う。	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		38,000	38,000	38,000	38,000	
	実績値		37,767	25,989	24,108	19,456			
	達成率			68.40	63.40	51.20		%	
指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	
		目標値		95.00	100.00	100.00	100.00	%	
	実績値		91.20	95.00	100.00	100.00		%	
	達成率			100.00	100.00	100.00		%	

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	76,270	113,351
うち一般財源(千円)	28,809	46,399

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

島根県が管理する河川は、600河川の延長2,690kmで、そのうち重要水防区域（31河川：延長338km）、危険な箇所（224箇所：182km）については、重点的に河川等巡視点検を実施する必要がある。
また、樋門等の河川管理施設の定期的な点検による適切な維持管理が必要。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・H26年度より、今まで不定期だった樋門等の河川管理施設の点検を毎年実施することとした。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

・近年、予測不可能な局地的なゲリラ豪雨が発生するため、災害を未然に防ぐ又は被災を軽減するためには、危険箇所の把握は必要不可欠であるが、全ての河川において十分な巡視・点検が実施できていない現状である。

②困っている状況が発生している「原因」

・県が管理する河川は、600。河川の延長2,690kmで、そのうち重要水防区域（31河川：延長338km）、危険な箇所（224箇所：182km）については、重点的に河川等巡視点検を実施する必要があり、限られた予算、人員での効率的な河川等巡視点検に努めているが、全ての河川において十分な巡視・点検が実施できていない現状である。

③原因を解消するための「課題」

・平成25年度からは嘱託員を配置し、点検及び危険箇所の把握を行っているが、十分な体制とはなっていないため充実する必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・巡視点検の強化を図るため、今年度も引き続き巡視員（嘱託員）により、点検を実施する。
・近年、予測不可能な局地的なゲリラ豪雨が発生するため、災害を未然に防ぐ又は被災を軽減するためには、危険箇所の把握は必要不可欠であるので、台帳の整備等を通じて効率的な河川等巡視点検を行い、危険箇所の把握に努める。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）